NEWS RELEASE

阪急電鉄株式会社
Hankyu Corporation
広報部（報道担当）
〒530-8389 大阪市北区芝田1-16-1
TEL06-6373-5092 FAX06-6373-5670
http://www.hankyu-hanshin.co.jp/

２０１０－０３
２０１０．１２．２７

日本初の本格的全鋼製車両

阪急６００系を川崎重工業より譲り受けました 正雀工場で静態保存し、来年春に一般公開します

阪急電鉄は、今般、川崎重工業株式会社より、同社・兵庫工場内で静態保存されている、阪急６００系車両（６０２号車）を譲り受けました。

阪急６００系車両は、１９２６年（大正１５年）に、日本初の本格的な全鋼車体を採用した大型車両で、川崎造船所兵庫工場（現・川崎重工兵庫工場）で製造されました。３扉や下降式の窓、深い丸屋根が特徴で、リベットがたくさん打ち込まれた車体は鋼製車らしい頑丈な姿を示し、当時、他社でもならってこの形態が採用されました。当社では１９７５年（昭和５０年）まで、約半世紀にわたり神戸線や宝塚線で活躍。廃車後、この６０２号車は、生まれ故郷である川崎重工兵庫工場で今日まで静態保存されてきました。

本年３月１０日に阪急電鉄が開業１００周年を迎えるにあたり、その記念事業の一環として、川崎重工に同車両の譲渡をお願いしていたところ、ご理解を得ることができ、本日（１２月２７日）、当社正雀工場への搬入を無事完了しました。今後、車両の整備工事を行い、同所にて静態保存するとともに、来春に開催する「阪急レールウェイフェスティバル」で往時の姿をお披露目する予定です。

川崎重工の皆さま、また同社ＯＢの皆さまには、このたびのご厚情に心より感謝しております。

概要は以下のとおりです。

１９５９年（昭和３４年）２月　宝塚線 山本－雲雀丘※（当時）を走る６００系車両　（篠原丞 様 撮影）

※雲雀丘駅は１９６１年（昭和３６年）１月に花屋敷駅と統合。これにより両駅間に雲雀丘花屋敷駅が開設されるのと同時に廃止。

６００系（６０２号車）について

１．譲受車両　　６００系（６０２号車）
製造：１９２６年（大正１５年）５月
全長：１７，１７０mm　　全幅：　２，７４０mm
全高：　４，１１０mm　　重量：　約２８ｔ
定員：　１２６人　　電動機出力：７１kw×４基（製造当初）

２．譲受年月日　　２０１０年１２月２７日（月）

３．保存場所　　阪急電鉄正雀工場（摂津市阪急正雀１番２号）内で静態保存します。

４．公開予定　　２０１１年春（予定）
「阪急レールウェイフェスティバル」での公開を目指して整備を進めていますが、整備に要する部品の調達などにより、公開が遅れる可能性もあります。

【６００系車両について】
阪急電鉄６００系車両は、日本で最初の本格的な全鋼製車両で、１９２６年（大正１５年）に、川崎造船所兵庫工場（現・川崎重工兵庫工場）で製造されました。当時の鉄道は、まだ木造車両からの過渡期で、半鋼製車両がその主役でした。「脆弱な車体ではいけない、ご乗客の命を預かるものだから車両は強固であるべき」と、車両製造技術の向上を進めていた川崎造船所より全鋼製車両の導入の提案を受けた、当社の小林一三は、他社に先駆けて全鋼製車の導入を決断し、この６００系は全部で１８両が製造されました。同年７月、当社では、大阪市内高架線の工事が完成し、梅田～十三間が複々線化され、神戸線と宝塚線は、それぞれ専用の軌道を持つことになりました。この高架線の開通にともない、大型車両の投入が可能となり、６００系は大型で安全な車両として、１９７５年（昭和５０年）に引退するまで神戸線や宝塚線で活躍し、多くのお客様を運びました。そして、引退後、最も状態の良かった６０２号車が、川崎重工兵庫工場で今日まで「技術遺産」として保存されてきました。

※ご参考　：　阪急電鉄では正雀工場で次の車両を保存しています。

１形 （１号車）	１９１０年（明治４３年）、箕面有馬電気軌道の開業時に製造した当社で最初の車両です。１９５７年（昭和３２年）に阪急電鉄創立５０周年を記念して１９２７年（昭和２年）当時の姿に復元して保存しています。
１０形 （１０号車）	１９２５年（大正１４年）、阪急京都線の前身の新京阪鉄道が千里山線（現・千里線）を延長したのを機に製造され活躍の後、１９６６年（昭和４１年）にすべて廃車になりました。
１００形 （１１６号車）	新京阪鉄道が京都まで開通するのに備え、１９２７年（昭和２年）から１９２９年（昭和４年）にかけて製造されました。１９７３年（昭和４８年）にはすべて廃車されましたが、技術遺産として昭和３０年ごろの姿に復元して保存。１９９７年（平成９年）には自力走行を可能にし、阪急レールウェイフェスティバルでは、後述の９００形（９００号車）との連結運転を行っています。国鉄線との併走区間で、特急「燕」を追い抜いたという韋駄天ぶりは有名です。
９００形 （９００号車）	１９３０年（昭和５年）に神戸線の特急運転開始に備えて製造された車両で、１９３６年（昭和１１年）の三宮への乗り入れ時には、梅田～神戸（現・三宮）間を２５分で走破するなど阪急発展の礎となったほか、以降の当社の車両形態の基本となった車両です。阪急電鉄創業８０周年を記念して１９８７年（昭和６２年）から製造当初の姿で保存しています。

以　上

【ニュースリリース配付先】青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ、神戸経済記者クラブ